連帯強め

立山さん

できんようになり、あわてて天領病院（三井鉱山経営）に診てもらいにいったまま入院。

ある三池労組員が、ベルトコンベヤーの側で仕事していて、ベルトが止まっていたから足をベルトにかけながら仕事していたところが、急にベルトが回りだしたためにつまずいて腰を打ったんです。

その仲間はその頃ちょうど自動車学校に通っていましたが、「どうしても公傷で休むというなら、自動車学校にもゆくな」、といってきたわけです。あと二〜三日いけば……というところまできていたときだっただけに、その仲間としては痛かったわけですが、そんな負傷者に対して職制は「二〜三日後にひかず公傷と認めさせたですが、とにかく会社は公傷を何とか隠そうとしてくるわけです。

栗野　とにかく職制は、各人がもっている一番の弱点をつかまえながら、うまいこと圧力をかけてくるんですよ。

ケガすればハイ保安部へ

立山　どんなケガでも「本人の責任」で、私たちの坑外職場の条件が変わる。出炭能率が高くなれば高くなるほど、機械をよけいに使う。

前川　坑内の条件によって修理や整備の仕事がふえる。かんじんの機械も、日一日と増強されていく出炭から絶対数が足りないから、修理や整理のため坑内から私たちの修理場へあがってきても、以前のように念を入れて修理や整備をやる余裕がない。その時間が減ってきた。そればかりか、修理や整備がしぜん荒っぽくなる。

「早く、早く」とせかれるから、なかには修理や整備には目をつぶって、油のなかにつけてちょっと掃除してごまかして「ハイ」と坑底へさげるようなことさえある。機械を分解している暇がない。

だもんだから、坑底ではすぐ機械が使えなくなる。目づまりのために、カッターから水が出なくなったり。

パンツアーコンベヤーの石炭搬出量がふえるから、機械にすぐ無理がきて修理多発となったり。

栗野　四山では、いざ機械が故障したからといって、いちいちうえにあげていては採炭の進行に間に合わんもんだから、坑底の現場でその修理を仕繰工なんかにやらせている。

前川さん

油掃除で「ハイ完了」

出炭に追いつけぬ機械修理

仲間に優しさ忘れず

これ以上の合理化許せぬ

立山　忘れてならないのは、社外工とか組夫。同じ炭鉱の坑内にさがって働くこの仲間たちのボーナスは、せいぜい五万円か六万円だったといいます。

森田　たしかに三池炭鉱の労働条件は、余りにも悪い。たとえば、三川鉱のフロ場などそこかしこスッポンポン。寒い風が入ってくるから、三番勤務の者が昇坑してフロに入っても、寒くってやりきれん。今まではあのフロ場に体を洗うときの腰掛けの備えさえなかった。やっとこんど要求して備えつけさせたのですが。

森田さん

職場は職場で、ちょっとしたことになると「坑内じゃけん、熱かくさ」となる。気の毒なのは係員。常二番の係員なんか、二番方といっしょにあがっている。

森田　そんな坑底で、人間が仕事をしなければならないことを考えると恐ろしくなる。

インチキも甚だしい月給制

日高　労働者の怒りを、ZD運動でうまくおさえる。三川では五、六人がひとグループで、ちいさいうちにあげていては採炭の進行に間に合わんもんだから、坑底の現場でその修理を仕繰工なんかにやらせている。

ZD運動グループへ会社が与える表彰状。この裏に黒いたくらみが……。

日高　新労組員仲間も、日ごとに変わっています。家を訪ねていくと、「あがれ、あがれ」。とにも進んで手を添えてやる。年季からすれば、三池労組員が何といってもうえだから。

立山　日常の人間関係をもっと大切にしていく。仲間に優しい気持を忘れぬこと。

堀田　仲間からはほれられ相手には厳しく。

栗野　資本は、ますます巧みさを加えながら、労働者の魂を骨抜きにする攻撃を加えてきているのだから。向うが五人組をつくってきている。

日高　新労組員仲間も、日ごとに変わっています。家を訪ねていくと、「あがれ、あがれ」。

立山　やっぱり、現場で闘っていくことが第一だな。

森田　それにフロ場。そこでいちばん素顔がのぞいて、ひょいと働く者の本音が飛びだしてくる。

職場で、たとえばだれかが骨折しても、その〝前チェック〟。これが踏み絵となって、「前チェックが足りなかった」でケガはすべて私傷取扱い。公傷と認めさせると、〝差別〟の報復が必ず返ってくる。

優しさと厳しさを失わず…

立山　やっぱり、現場で闘っていくことが第一だな。

森田　それにフロ場。そこでいちばん素顔がのぞいて、ひょいと働く者の本音が飛びだしてくる。

職場は職場で、ちょっとしたことにも進んで手を添えてやる。年季からすれば、三池労組員が何といってもうえだから。

立山　日常の人間関係をもっと大切にしていく。仲間に優しい気持を忘れぬこと。

堀田　仲間からはほれられ相手には厳しく。

栗野　資本は、ますます巧みさを加えながら、労働者の魂を骨抜きにする攻撃を加えてきているのだから。向うが五人組をつくってきている。

日高　新労組員仲間も、日ごとに変わっています。家を訪ねていくと、「あがれ、あがれ」。

俳句　年賀状

退職者の会　高椋竜生

割烹着つけっぱなしに除夜の妻
しきたりの先ずは父より屠蘇祝う
はみださんばかりに孫の年賀状
人柄の句柄ににじむ賀状かな
孫ら来て正月天手古舞の妻

ケガは本人の責任

重労働に狩り立てるZD・前チェック

職場で、たとえばだれかが骨折しても、その〝前チェック〟。これが踏み絵となって、「前チェックが足りなかった」でケガはすべて私傷取扱い。公傷と認めさせると、〝差別〟の報復が必ず返ってくる。

写真は、負傷撲滅運動の一つのスローガン

正しい情報などが欲しいのです。

山下　とにかく今職場には、人間の限界を越えた重労働が押しつけられ、おびただしい労働者を傷つけながら、責任を本人に押しつけていく。そして、労働者の怒りはZDでうまくはぐらかし、港務所の月給制に典型を見るように、差別を通じては競争心をあおり立て、よりいっそうの重労働を抵抗なく押しつける。強めなければならない反合理化闘争の内容とでもいうものが、さらけだされた感じです。一方、団結をさらに強めることが求められるわけですが、その中身も痛いほどつきつけられました。

新しい年とともに、七八春闘も迫ってまいりますとき、何はさておき、これを三池炭鉱の全労働者への提言にしたいと思います。ありがとうございました。